人魚（1964）

メディア 映画　アニメ
ジャンル
製作国　日本
色彩　Color
時間　8分
初公開日 1964/09/21

【解説】
　手塚治虫が虫プロの場で作った、先行作品『おす』に続く2本目の短編実験アニメ。
　そこはどこかの遠い国。空想力の豊かな一人の少年が、ある日、海辺で小さな魚を助ける。助けられた魚は少年の前で愛らしい人魚の娘の姿になった。少年は人魚を家に連れて帰り大きな水槽に入れるが、同居する両親の目にはそれは魚にしか見えなかった。やがて警官が現れ、少年を連行する。この国では自由な空想は許されないのだった。少年は厳しい拷問に耐えるが、釈放された時にはもはや人魚が魚にしか見えなくなってしまう。そんな魚を手に、少年は海へ向かうが……。
「自由」をテーマにした観念色の強い作品で、少年ほかの登場人物たちはいずれもシンプルな絵柄で作画される。1960年代前半の国内外の社会問題を鋭敏に捉えた、手塚の危機意識が反映された作品という見識もある。全編を彩る音楽は、冨田勲がドビュシーの「牧神の午後の前奏曲」をもとにアレンジ。

【クレジット】
演出　手塚治虫　Osamu Tezuka
製作　富岡厚司
構成　手塚治虫　Osamu Tezuka
原案　手塚治虫　Osamu Tezuka
撮影　佐倉紀行
音楽　富田勲　　（ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」より）

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.